

身延山高等学校・手話コミュニケーション部

顧問の小澤伸英先生より

身延山高校手話コミュニケーション部（山梨県）は今年3月、東北復興地、宮城県亘理町の災害公営住宅の災害公営住宅の集会所で手話パフォーマンス&手話教室を開催しました。

河北新報に記事が掲載されたので、もし宜しければご覧ください（〇）

専攻

2018年(平成30年)4月4日(水曜日)

手話 広がる笑顔

山梨県身延町の身延山高校の手話コミュニケーション部の生徒ら6人が3月31日、亘理町の上浜街道災害公営住宅を訪れ、住民に手話を教えるなどして交流した。同住宅に住む耳の聞こえない加藤豊男さん(73)とのコミュニケーションを深めるきっかけにしてほしいと企画され、参加者は笑顔で手を動かした。交流のきっかけを作ったのは名古屋市の映画監督今村彩子さん(38)。自身も耳が聞こえない今村さんは東日本大震災後、加藤さんから被災地の聴覚障害者の取材を続けている。自宅を津波で流された加藤さんは2015年6月、同住宅に移った。支障者らによると、1人暮らしで知人がほとんどいないため部屋に閉じこもりがちだったが、17年4月に住民らの交

山梨の高校生、亘理の災害住宅訪問

住民の交流促進を支援

高校生(左から2人目)と一緒に住民に手話を教える加藤さん(左端)



流組織「たんぼほの会」に出入りするようになって笑顔が戻ったという。ただ、加藤さんと周囲とのやりとりは身ぶりや筆談が中心。少しでもコミュニ

ケーションを深めてほしいと考えた今村さんが、交流のあった身延山高に声をかけて訪問が実現した。交流会はたんぼほの会1周年を祝う一環で行われ、生徒たちは手話付きの歌を披露し、手話によるあいさつなどを伝えた。住民は、手話での年齢の聞き方や数の数え方を質問するなど積極的に取り組んだ。会には今村さんも参加した。手話コミュニケーション部部長の3年堀内飛陽さん(17)は「聞こえる人も聞こえない人も、普段通りに話せるきっかけになったらうれしい」と語り、たんぼほの会会長の渡辺紀美子さん(73)は「あいさつなど、少しずつでも手話を覚えたい」と話した。加藤さんは「ここに来た当初は知っている人がいなくて苦しかった。きょうは、手話を知ってもらった感じが良かったと思う」と笑顔を見せた。